124号
くまびょうNEWS
くまびょうNEWS
2007年10月1日
[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519

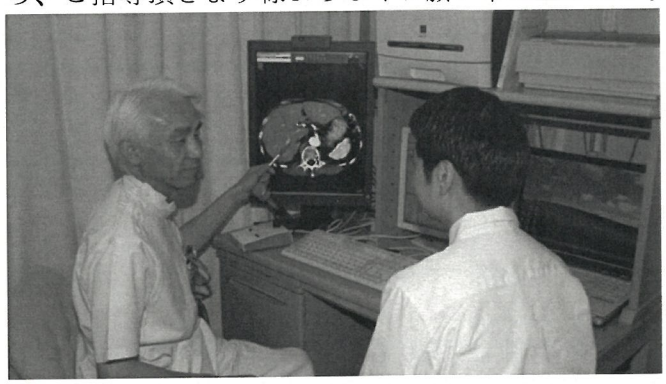
電子カルテにより迅速な診療、安全管理が実現しました

病院情報室長・外科部長
片渕　茂

2006年2月1日にオーダリングシステム（富士通HOPE/EGMAIN-EX）を導入し、2006年11月1日電子カルテに移行し12ヶ月目となりました。電子カルテは、迅速な診療、安全管理、職員の単純作業の軽減などに大きく役立っています。

最も大きな特徴は、優れた機能を持つ電子クリティカルパスです。全ての診療情報がクリティカルパス上にあり、全ての指示が一括発行できます。追加したオーダ、記録も自動的にクリティカルパスに反映され、紙で運用されるクリティカルパスを超える情報の共有を実現しました。電子クリティカルパスは全入院患者さまの約50%に使用され、チーム医療の向上に大きく貢献しています。

2007年2月1日放射線画像システムに高精細モニタを導入し、フィルムを現像しないフィルムレス運用となりました。これにより、診療録、画像など、すべての情報が電子化され、紙カルテ、X線フィルム袋がなくなりました。外来診療は予約制となり、予約のない患者様も当日の空いている時間を予約し診察を受けます。院外よりFAXで紹介して頂く患者様も、この予約システムを利用することで、診察日だけでなく診察時間まで予約することが可能となりました。臨床検体検査は、採血後30分から1時間で、結果を印刷してお渡しすることができます。放射線画像検査も、当日撮影した画像や放射線科医の読影報告書を、各診察室の電子カルテ端末で患者様にお見せしながら説明することが可能となり、検査結果の説明のためにもう一度、受診して頂く必要がなくなりました。病棟では、入院時患者様にはリストバンドを付けて頂き、手術、放射線科検査、注射時には、バーコードチェックを行うことで患者誤認防止、安全管理に役立っております。看護師は病室でワゴンに乗せた無線LANノート端末を使用しています。このシステムにより病室でオーダの確認、実施記録をすることができ、急性疾患にも柔軟な対応が可能となっています。電子カルテ化に伴い、当初、戸惑う患者様もおられましたが、患者中心の良質の医療を提供するための運用変更であることをご理解頂いております。何かお気づきの点がございましたら、ご指導頂きます様よろしくお願い申し上げます。



電子カルテ端末での説明風景

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります

標　榜

緒方消化器内科
院長 緒方 一朗

今年、厚生労働省から標榜科についての見直し案が出ました。標榜科を整理して患者にわかりやすくするのが目的ということで、内科・外科の専門領域（呼吸器科、循環器科、消化器科、神経科、肛門科、性病科など）が標榜診療科から外れてしまいそうですが、医療関係者である私の目からはよっぽど現行の方がわかり易い気がします。当方は今年5月に、医院の名称を“放射線科”から消化器内科へ変更しましたが、放射線科自体は見直し後もそのまま標榜できます。

当院は開院時からいわゆる“胃腸科”なのですが、昭和45年に前院長の出身講座そのままに“放射線科”という名で開院しました。開院した当時は消化管の検査はX線が中心で、放射線科という名称も診療内容を表していたのかもしれません。しかし現在“放射線科”というとMRI、CT、PETなどの画像診断や放射線治療をイメージされるでしょう。毎年、学外研修で回ってくる医学部の学生に当方が何をやっているところだと思ったか尋ねますと「わからない」「CTやMRIの所見を書いている画像診断センター」「放射線治療をやっているところ」という答えが返ってきます。悲しいことに当院を“かかりつけ”にして頂いている患者さんの中にも胃腸の検査だけは他院で行っているなんて方もいたりします。また、最近驚いたのは大学病院の放射線科外来でさえ放射線科の表示の下に“画像診断科”という看板が下がっています。医療機器の進歩に伴い診療する領域がさまざまに変化する放射線科は、その標榜自体がわかりにくいものであり、特に診療所が表記する標榜科にはそぐわないのではないかとさえ思います。

今回、名称変更するにあたっては、このようなことを思い巡らせていたわけでありますが、長年何をするところかよくわからないまま“放射線科”に来院して頂いた患者さんと逆境のなかで診療を続けてこられた前院長に感謝したいと思います。

平成19年度第1回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成19年度第1回開放型病院連絡会を前にして、去る8月20日（月）、熊本市歯科医師会と国立病院機構熊本医療センターとの協議会が熊本県歯科医師会館にて開催されました。

市歯科医師会からは古賀会長、藤波副会長、清村専務理事、田中理事、宮本医療管理委員長が出席され、当院からは宮﨑院長、池井副院長、河野副院長、高橋救命救急部長、児玉歯科・口腔外科医長が出席しました。

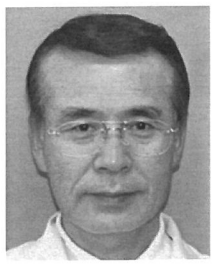
古賀会長、宮﨑院長の挨拶の後、議事に入りました。まず、児玉から本年度の歯科紹介率について、まだ4ヶ月を経過したばかりですが、35%を超える率で安定してきていることを報告しました。また、前回会議で歯科医師会にPRをお願いしました障害者歯科医療はお陰様で4例ほど会員からの御紹介があったことを報告しました。

次いで、高橋救命救急部長から本院の歯科・口腔外科救急症例についての報告があり、症例数では前年度と変化はないが、外傷が2倍以上に増加しているとのことでした。歯科医師会からは田中理事により、本年度の救急蘇生講習会について日時、参加者の報告があり、今回のテーマとして「アナフィラキシーショックの対処について」の要望がありました。

次いで、池井副院長から平成19年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会の開催についての説明があり、パネルディスカッションには歯科医師会員の参加をお願いしました。

最後にオーラルケアが話題となり、歯科では最近その気運が高まっているが、医科では関心が薄いためその連携がうまくいかず伸び悩んでいるとのことでした。そこで、この開放型病院連絡会が歯科と医科の病診連携をつなぐ役割を果たすのではないかと思われ、この会をさらに発展させる必要があると感じました。

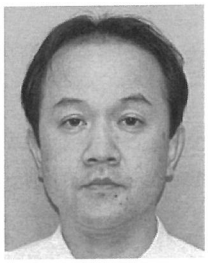
（歯科・口腔外科医長　児玉　圀昭）



三森　寛幸

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療

日本産婦人科学会専門医
日本臨床細胞学会指導医
日本臨床細胞学会代議員
熊本大学非常勤講師
母体保護法指定医



永井　隆司

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療
産婦人科一般、周産期管理

日本産婦人科学会専門医
母体保護法指定医

園田　直子

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療
産婦人科一般、周産期管理

日本産婦人科学会専門医

伊藤　史子

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療
産婦人科一般

診療内容と特色

当科は、婦人科悪性腫瘍の診断、治療を重点目標に診療を行っています。婦人科悪性腫瘍患者数は九州でも、トップクラスです。その他産婦人科一般疾患、良性腫瘍さらに、卵巣腫瘍茎捻転、子宮外妊娠、骨盤内炎症性疾患、卵巣出血等の救急症例も年々増加しています。新入院患者数は最近10年で2倍以上の増加があり、手術症例数も最近著明に増加し2006年は371例で、過去最高の件数となりました。

診療実績

婦人科悪性腫瘍（頸癌、体癌、卵巣癌）は1974年～2006年までで、総数3,678例の症例があり、2006年は年間173例の新患数があり、過去最多となりました。特に子宮体癌は、53例と前年の1.6倍の増加となっています。また、最近増加傾向の著しい子宮頸部上皮内癌（1a1期を含む）では現在原則として頸部の円錐切除術で子宮温存を行っています。さらに、生存率向上を目的に、子宮頸部浸潤癌、および一部の子宮体癌では症例により、根治手術前の化学療法（NAC）も選択し、さらに進行子宮頸癌に対しては、抗癌剤同時併用放射線療法（2002年11月より）を施行し、進行癌症例に対しても積極的治療を行う一方、卵巣癌の化学療法では、今までのCJ（サイクロフォスファマイド＋カルボプラチン）にかわりTJ（タキソール＋カルボプラチン）、DJ（ドセタキセル＋カルボプラチン）を第一選択としており、さらなる治癒率の向上を目指しています。

さらに、広汎性手術における神経温存、術後リンパ浮腫の軽減のための工夫など、術後QOL改善にも積極的に取り組んでいます。

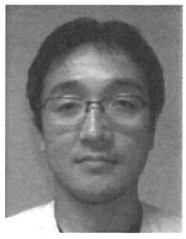
研究実績

悪性腫瘍の蔓延様式の解明は根治手術術式を決定する上で重要な事項ですが、婦人科領域では子宮頚癌ではかなりのデータがありますが、子宮体癌、卵巣癌ではその蔓延様式は詳細には解明されておらず術式選択においても標準化が不十分です。当科では子宮体癌、卵巣癌の後腹膜リンパ節郭清症例を用いて、リンパ行性転移の実体を解明し術式の標準化を目指しています。

ご案内

現在、当科は上記の4人で診療を行っています。外来は月、火、木は4人全員で担当します。火曜日の午後は周産期外来を行っています。水曜、金曜日は通常午前中から、根治手術を予定していますので、通常1名の医師で外来診療を担当します。手術は、予定手術を月曜日の午後、水、金曜日の終日にて行っており、週に6～10件を施行しています。その他、火曜日と木曜日の午後は放射線治療、カンファレンス、子宮鏡などの検査を行っています。また急患に関しては、24時間体制で対応しています。

新任職員紹介



外　科
本田志延（ほんだ しのぶ）

10月より、外科に勤務させて頂くこととなりました本田志延と申します。

1993年に熊本大学を卒業し、当時の第二外科に入局致しました。1年間の熊本大学医学部附属病院での研修後、国保水俣市立総合医療センター外科、都立駒込病院外科系シニアレジデント、渭南病院（高知県土佐清水市）外科、その後は熊本大学大学院腫瘍医学教室での研究生活をはさみ、国立病院機構熊本再春荘病院外科、さらに熊本大学消化器外科を経て、現在に至っております。

国立病院機構熊本医療センターは、施設間の役割分担による、効率的で、医療を受ける側にとって安心で便利な地域医療システムの構築を目指す姿勢が感じられ、自分もその一助となれるよう努力したいと思っております。

振り返ってみますと、大学病院以外では熊本市内の病院への勤務は初めてとなります。築城400年の記念すべき年に、この城内の一角への通勤が始まり、うれしく思っています（最近、池波正太郎の「火の国の城」読みました）が、最後の坂に負けず、自転車通勤ができるかどうか、とても懸念しています。どうぞよろしくお願い致します。

脳神経センター
脳神経外科
吉永豊（よしなが ゆたか）

この度10月1日付けで脳外科に勤務させて頂くこととなりました吉永豊と申します。1992年に大分県上野ヶ丘高校を卒業後、熊本大学医学部に入学し、1998年より熊本大学脳神経外科に入局しております。1年間大学病院の病棟で研修後、大分県別府市の新別府病院で1年間更に研修を積ませて頂いた後、2000年より天草地域医療センターにて地域の救急医療に触れる機会を得ることが出来ました。2001年に再び大学病院にて勤務後、大学院に進学し丁度5年間の研究生活をさせて頂いております。今年4月より大学病院の病棟勤務を行いながら、臨床医としての勘を取り戻している所ではありますが、今回国立病院機構熊本医療センターで働かせて頂くこととなりました。

専門医になるべく臨床知識だけでなく、医者としての態度、考え方等まだまだ学ぶべき事の多い未熟な状態ですが、少しでも皆様と共に地域医療に向けて自分の力を役立てられるように頑張りたいと思っております。ご迷惑をお掛けすることも多いかと思いますが、御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

第7回 看護学校文化祭「花粋祭」のご案内

●日時：2007年10月27日（土）10:00～15:00　●場所：国立病院機構熊本医療センター附属看護学校

国立病院機構熊本医療センター附属看護学校では、来る10月27日（土）10時より15時まで第7回花粋祭を開催致します。花粋祭は、学生全員がひとつの目標に向かって計画・実践していくことで、学生の自主性や協調性を培い達成感を感じることができることをねらいとして、学生自治会活動の一環として位置づけています。また、病院職員を含めた地域の方々との交流も大きな目的です。

学生は余暇時間を利用して4月から頑張って準備を進めてきました。今年は学生が看護の学習を進めるうえでいろいろな方に支援を受けているということを感じ、これらの支援に対するお礼と感謝の気持ちを込め、「Hospitality」というテーマを選びました。研究発表、模擬店、ステージ発表、フリーマーケット、癒しのコーナーなどを予定しています。また、今年は前夜祭として元C・C・Bのヴォーカル＆ドラマーで活躍された「りゅうこうじさん」の特別講演も企画しました。

手作りの学校祭ではありますが、今年は昨年以上のお客様においで頂き、学生全員で“おもてなし”をしようと張り切っていますので、是非足をお運びくださいますよう御案内申し上げます。

（教育主事　安浪小夜子）

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ 35回

救急医療の最先端

救命救急部長　高橋　毅

救命救急部では様々な臨床研究を行っていますが、その中で最も力を入れているテーマの1つ、脳血管障害に関する研究・臨床試験につきまして、最近新たに共同研究を開始致しましたのでご紹介します。

2006年度厚生労働省循環器病研究委託事業

■急性期脳梗塞の血圧動態と降圧療法に関する研究■

脳梗塞の急性期には脳還流圧低下を来しかねない降圧療法はたとえ過度の血圧上昇を示していても禁忌とされていましたが、近年新しいタイプの降圧剤として登場したアンギオテンシン1型受容体拮抗薬（ARB）のひとつであるCanndesartanを脳梗塞急性期から使用することで1年後の心血管イベントの発症抑制につながることを示した欧州のACCESS研究結果を踏まえ、本邦でも急性期降圧治療の有効性を証明する研究です。

2006年度国立病院機構EBM推進事業選考課題

■脳卒中患者におけるメタボリックシンドロームの関与に関する研究■

メタボリックシンドローム（MS）は動脈硬化性疾患の発症リスクが極めて高いとされ2005年4月に8学会合同による日本版診断基準が公表されました。しかし臨床研究では虚血性心疾患発症との関与に重点が置かれており、わが国の死因第3位である脳卒中に関与する研究はほとんど行われていません。そこで、脳卒中患者におけるMSの有病率をデータ集積し、症例対照研究により我々日本人に於ける脳卒中とMS関与のエビデンスを明らかにするための研究です。脳卒中患者の85%に高血圧、40%に高血糖、47%に脂質異常が認められています。肥満者の81%にMSが認められ、脳卒中患者の約3割に及びます。

治験（臨床試験）

■脳梗塞急性期におけるONO-2506後期第Ⅱ相／第Ⅲ相試験■

脳血管に閉塞が起きると、血流を受けていた脳組織の中心部は壊死に陥り、その周辺の脳組織は強い虚血状態（ペナンブラ）になります。脳梗塞治療の大きな目標はこのペナンブラ状態の部分を救うことにより最終的に傷害される脳組織を最小限度にくい止めることにあります。脳に存在するアストロサイトという細胞はこのような状態になると、異常に増殖・活性化しペナンブラを攻撃し、障害部分を広げます。今回臨床試験で使用するONO-2506はこのアストロサイトを正常化することによりペナンブラを保護する薬です。予備試験では、患者さんの予後を20%以上改善しています。この薬剤の臨床試験を、一定の条件を満たし、同意を戴いた方にご協力戴いています。

第9回 日本医療マネジメント学会学術総会に参加して

去る7月13日から2日間、東京のグランドプリンスホテル新高輪・国際館パミールにおいて第9回日本医療マネジメント学会学術総会が、落合滋之会長（NTT東日本関東病院長）のもと開催されました。演題数は、シンポジウム、招待講演、教育講演、一般演題、ポスター等750を超え、約4,000名の参加がありました。日本医療マネジメント学会は、クリティカルパス、医療連携、医療安全等の研究を通して医療の質向上を目指す医療現場に根ざした学会で、会員数も5,000名を超え年々成長し続けている学会です。今回の学術総会では現状を反映して地域医療ネットワーク、看護基準の見直しに多くの関心が寄せられていました。特に目立ったのは、地域連携クリティカルパスの発表でした。これまでにない多くの発表があり、今後の地域医療の方向性を見て取ることが出来ました。

学術総会2日目は、台風で西日本方面の航空便は全便欠航となり、延泊を余儀なくされましたが、大きな収穫が得られた学術総会でした。第10回の学術総会はトヨタ記念病院長の稲垣春夫先生を会長に2008年6月20日21日に名古屋国際会議場で開催予定です。

（統括診療部長　野村　一俊）

研修医レポート

総合医療センター
血液・膠原病内科
榊田光倫（さかきだこうりん）

はじめまして。

2007年4月より国立病院機構熊本医療センターの初期臨床研修でお世話になっております榊田光倫と申します。

この4～9月にかけて、外科、救命救急、麻酔科とまわり、10月より内科を担当させて頂きます。

すべてが初めての経験ばかりであり緊張の連続ではありますが、己の未熟さと向き合いながら前に向かって頑張っています。

実際の臨床は想像以上にダイナミックであり、時々刻々と変化していきます。

そのような状況の中で、病態、検査、治療方針を常に考えていかなければならないのはもちろんですが、加えて患者様、そのご家族とのコミュニケーションといった部分もしっかり進めていくことの重要性も痛感しています。

また、研修期間中は多くの同期生、先輩方、医療スタッフの方々から様々なアドバイスを頂き、それがなによりの宝物となっています。

研修が始まって半年過ぎましたが、まだまだわからないことばかりでご迷惑をおかけしております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

消化器病センター
消化器科
江藤弘二郎（えとうこうじろう）

はじめまして。2007年4月から、国立病院機構熊本医療センターにて研修を積ませて頂いている江藤弘二郎と申します。私は、2年間国立病院機構熊本医療センターの専属の研修医として研修を行うこととなっております。

私が、研修先として国立病院機構熊本医療センターを選択した理由としましては、救急に非常に力を入れており、研修2年間という短い間でできるだけ多くの症例を担当し、実りの多い研修生活を送りたいと考えたからです。

現在、1年目の研修医は国立病院機構熊本医療センターの研修プログラムで16名、熊本大学付属病院Cプログラムで4名の計20名所属しております。その20人を内科系10名、外科系（外科、麻酔科、救急部）10名に分けて、研修を行っております。私は、内科系を先に回らせて頂いております。内科系は、国立病院機構熊本医療センター内にある血液内科、腎臓内科、代謝内分泌内科、呼吸器科、消化器科、神経内科、循環器科のなかから2ヶ月ずつ3部署回ることができるということで私は、血液内科、腎代謝内科、消化器科の3つを先に回り、残りを2年目の選択の機会に回ることとしました。

血液内科では、抗癌剤の種類・使用法・副作用や移植の順序・GVHD対策などはもちろんですが、重症の患者様を目の当たりにして指導医の先生の患者様への接し方など医師としての最も重要である部分を学ぶことができたと感じ、非常に有意義な2ヶ月でした。

腎臓内科では、急性腎不全や多臓器不全などの急性期の患者様も透析導入などの慢性期の患者様も経験でき、代謝内科では糖尿病を中心に甲状腺クリーゼや糖尿病性ケトアシドーシスなどの急性期の疾患も経験することができました。

現在は、消化器科を回っておりますがエコー・上部消化管内視鏡など学ぶべき手技が多く必死に勉強をしております。

上記の内科研修と平行して、救命救急センターでの夜間D当直も行っております。救急車の対応はもちろん、外来の患者様の予診取り・ルート留置や採血などを行っております。夜間に対応する患者数が多く、ほとんど息つくまもなく23：00となるのですが、出来るだけ理学所見をしっかり取るように心掛けております。

最後になりましたが、医師としては非常に未熟でありスタッフの皆様には大変ご迷惑をかけることと思いますが、御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。
国立病院機構熊本医療センター　ホームページアドレス　http://www.hosp.go.jp/~knh/

研修のご案内

第86回　救急症例検討会（無料）

日時▶2007年10月4日(木)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

症例検討「腹痛」　国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科医長　杉　和洋
国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長　三森　寛幸

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第105回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶2007年10月15日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧
国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「発症後1時間以内で当院搬送となった頸背部痛及び右上下肢麻痺を呈した1例」
国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科　高島　大輝
4. ミニレクチャー「ウイルス性肝炎に対するインターフェロン療法の最新知見」
国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科　片山　貴文

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第74回　三　木　会（無料）
（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］

日時▶2007年10月18日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．肥満および左鼠径部蜂窩織炎を合併した糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター内分泌代謝内科
東野哲志、豊永哲至、江藤弘二郎、市原ゆかり、児玉章子、高橋　毅、東輝一朗
2．ASO、内径動脈硬化性病変を合併した糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター内分泌代謝内科　児玉章子、市原ゆかり、豊永哲至、高橋　毅、東輝一朗
3．当科で施行している糖尿病地域連携パスについて
国立病院機構熊本医療センター内分泌代謝内科　東輝一朗、児玉章子、市原ゆかり、豊永哲至、高橋　毅

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長　東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線705

第88回　総合症例検討会（CPC）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年10月24日(水)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

テーマ：呼吸不全で入院し急速に多臓器不全をきたした一例　（症例 60歳代、男性）
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター救命救急部長　高橋　毅
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長　村山　寿彦

「入院6日前にバイクにて転倒し右鎖骨骨折を受傷した。入院2日前より発熱出現、入院当日呼吸困難あり急性呼吸不全のために入院となった。その後急速に多臓器不全が進行した。」

＊臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第216回　初期治療講座（会員制）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年10月27日(土)15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

「うつ病と自殺」　座長　熊本県医師会理事　小林　秀正
1．国立病院機構熊本医療センターにおける自傷行為例についての検討
国立病院機構熊本医療センター精神科医長　山下　建昭
2．精神科診療所におけるうつ病の診療について（自殺企図者への対応も含めて）
くろかみ心身クリニック院長　本島　昭洋

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

2007年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修ホール	会議室	その他
1日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
3日(水)	**18：30～20：30 第20回 熊本がんフォーラム** **「外来化学療法の取り組み」** **司会 国立病院機構熊本医療センター内科部長** **清川 哲志** **国立病院機構熊本医療センター外来化学療法委員会**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
4日(木)	**18：30～20：00 第86回 救急症例検討会** **「腹 痛」**		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
5日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
9日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
11日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
12日(金)		18：30～20：30 熊本地区核医学技術懇話会	8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
15日(月)	**19：00～20：30 第105回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］**		8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)	18：00～19：30 第39回 くすりの勉強会（公開）	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
17日(水)	13：00～17：00 糖尿病教室		12～13 糖尿病教室 研食 17：00 消化器疾患カンファレンス C
18日(木)	19：30～21：30 第47回 有病者歯科医療講演会 座長 前熊本市歯科医師会長 関 剛一 「歯科における感染対策」 ＮＴＴ西日本九州病院臨床検査技術主任 江藤 雄史	**19：00～20：45 第74回 三木会** **（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］** **［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］**	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
19日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
20日(土)	14：00～16：00 第201回 滅菌消毒法講座《会員制》 「手術部の感染制御について」 出水総合医療センター中央手術室医長 竹下 次郎		
22日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	18：30～20：30 血液研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図） 19：00～21：00 小児科火曜会	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
24日(水)	**19：00～20：30 第88回 総合症例検討会（CPC）** **［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **「呼吸不全で入院し急速に多臓器不全をきたした一例」**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
25日(木)	18：30～21：00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
26日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
27日(土)	**15：00～18：00 第216回 初期治療講座《会員制》 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **座長 熊本県医師会理事 小林 秀正** **「うつ病と自殺」** **1．国立病院機構熊本医療センターにおける自傷行為例についての検討** **国立病院機構熊本医療センター精神科医長 山下 建昭** **2．精神科診療所におけるうつ病の診療について（自殺企図者への対応も含めて）** **くろかみ心身クリニック院長 本島 昭洋**		
29日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)	19：00～20：30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
31日(水)	19：30～21：00 臨床口腔外科研究会		17：00 消化器疾患カンファレンス C

（図）図書室　C 病院本館2階カンファレンス　手 手術室控室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム　研食 教育研修棟食堂

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸1番5号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）